

大分県立看護科学大学の各施設における消毒の対応について

本学施設（教室、カレッジホール、図書館、南大分キャンパス等）の消毒については、以下のとおり実施する。

別紙 1：教職員・学生が新型コロナウイルス感染症陽性と判定された場合、もしくは濃厚接触者に特定された場合の対応

別紙 2：消毒の手順（教室の学生用）

別紙 3：一般の消毒手順

1. 消毒剤

- ・消毒剤は微酸性電解水「アクアサニター」を使用する。微酸性電解水は薄い塩酸を電気分解して作られた次亜塩素酸水で、除菌、消臭効果をもち手荒れがおきにくく、無害で安全性が高く、アルコールに代わる除菌剤としても注目されている。
- ・次亜塩素酸水は光に弱いため遮光性のある場所に保管する。
- ・次亜塩素酸水は原液の50ppm濃度を使用する。20～40ppmでインフルエンザウイルス、ネコカリシウイルスに効果がある（ウイルス不活化試験）ことが証明されている。
- ・細菌・カビへの効果は令和元年度卒業研究発表会要旨集 p45. 辻優華さんの卒論「微酸性電解水に対する薬剤感受性試験法の確立と殺菌効果の評価」を参照。→ Nekobus, 卒業研究. 要旨集.
- ・次亜塩素酸水はスプレー後、直ちに有機物と反応して水になるので10秒後に乾拭する。
- ・皮膚トラブルを起こす人もいるかもしれないのであらかじめテストして使用するとよい。
- ・次亜塩素酸水は鉄などの錆びやすい金属には不向きですが、テーブルやドアノブ、手すり、洋服の除菌・消臭、まな板や包丁、スマホ、PC、マスク、玩具、嘔吐物の除菌、カビ臭の消失などに活用できる。加湿器による空間除菌やマスクには20～30ppm程度に希釈して使用した方がよい。

2. 消毒の手順（別紙 2 と 3）

- ・500mlのスプレー式ボトルを各実施場所に配布する。遮光タイプと透明タイプを50本準備する（中には白い半透明のものあり）。透明タイプの場合は準備したバケツの中に保管する。
- ・消毒は別紙 2 もしくは別紙 3 の「消毒の手順」に従う。

3. 消毒剤の設置保管場所（表 1）

- ・保健室
- ・図書館
- ・事務室
- ・南大分キャンパス

4. 消毒実施場所と消毒作業（カッコ内）（表1）

- ・ 保健室（今村先生）
- ・ 講義室：21、22、23、31、32、33、34、35 各教室（学生当番、もしくは使用した人）
- ・ 演習室（使用した人）
- ・ マルチルーム（学生当番、もしくは使用した人）
- ・ 教材作成室（使用した人）
- ・ カレッジホール（使用した人）
- ・ 運動ルーム（使用した人）
- ・ 体育館（使用した人）
- ・ 事務室（事務職員）
- ・ 看護交流センター・センター事務室（事務職員）
- ・ 学長室（学長）
- ・ 会議室：D11会議室、中会議室、大会議室（使用した人）
- ・ 講堂（使用した人）
- ・ 施設管理室（管理室の方）
- ・ 食堂（ネバーランドの方、もしくは使用した人）
- ・ 図書館（図書館職員）
- ・ 各研究室（NPコース室含む）（教員）
- ・ 大学院生室（当番もしくは使用した人）
- ・ 実習室：基礎成人実習室、母性助産実習室、小児・NP実習室、地域実習室、NP実習室（使用者）
- ・ 売店（売店主）
- ・ 情報処理室（使用した人で入室制限あり）
- ・ 南大分キャンパス（学生当番、もしくは使用した人）

※使用した人とはその部屋を使った人

5. 消毒剤の補給方法（表1）

実施場所でスプレー内の消毒剤が無くなった場合は以下の保管・補給場所で消毒作業（消毒作業をした人）が補給する。

- ・ 保健室：21、22、23、31、31、33、34、35教室、演習室、マルチルーム、
教材作成室、カレッジホール、運動ルーム、体育館、保健室
- ・ 事務室：事務室、看護交流センター・センター事務室、学長室、各会議室、講堂、食堂
- ・ 図書館：各研究室、大学院生室、各実習室、売店、情報処理室、売店、図書館
- ・ 南大分キャンパス：南大分キャンパス
- ・

※ カレッジホールは今村先生が巡回し、無くなった場合に補給する。

6. スプレーの常備場所と非常備場所（表1）

- ・スプレーの常備：スプレーが常に置かれる場所
- ・スプレー非常備：スプレーが常に置かれていない場所

スプレーが置かれていない場所は表1中の常備場所と共有する。

7. 消毒液の供給

定期的に事務から消毒剤を購入元に発注する。

8. ウエルパスによる消毒

- ・現在配置している箇所に常備する。各玄関、教室の前の廊下等
- ・今村先生が巡回し、無くなった場所に補給する。

9. 周知

- ・1年生は13日、2～4年生には14、15日に学生オリエンテーション時に周知する。
- ・南大分キャンパスでは森先生が使用学生に周知し、消毒当番を決める。
- ・教職員にはメール等で周知する。

消毒実施場所	消毒作業者	消毒剤保管・補給場所	保管責任者	スプレーの常備/非常備	常備場所とスプレー共有	スプレーの本数
保健室	今村	保健室(6箱)	今村	常備		1本
講義室 (21.22.23.31.32.33.34.35 各教室)	学生(当番 or 使用者)			常備		8本(各1本)
演習室(11～14、21～24演習室)	使用者			非常備	マルチルーム	
マルチルーム	学生(当番 or 使用者)			常備		3本
教材作成室	使用者(PC返却時の都度)			常備		1本
カレッジホール	使用者			常備		1本
運動ルーム	使用者			常備		2本
体育館	使用者			非常備	運動ルーム	
事務室	事務職員	事務室(5箱)	矢部	常備		3本
看護交流センター・センター事務室	事務職員			常備		1本
学長室	学長			常備		1本
会議室 (D-11、中会議室、大会議室)	使用者			非常備	事務室	
講堂	使用者			非常備	事務室	
施設管理室	管理室の方			常備		1本
食堂	ネバーランドの方 or 使用者			常備		1本
図書館	図書館職員	図書館(5箱)	白川	常備		1本
各研究室(NPコース室含む)	教員			常備		18本(各1本)
大学院生室	院生(当番 or 使用者)			常備		1本
実習室(NP実習室含む)	使用者			常備		5本(各1本)
売店	売店主			常備		1本
情報処理室	使用者(入室制限あり)			常備		1本
南大分キャンパス	学生(当番)/使用者	南大分キャンパス(4箱)	森	常備		4本

*使用者とはその部屋を使った人

南大分キャンパスは「南大分キャンパスにおける消毒の対応について」に従う。

別紙 1 : 教職員・学生が新型コロナウイルス感染症陽性と判定された場合、もしくは濃厚接触者に特定された場合の対応

1. 教職員・学生が新型コロナウイルス感染症陽性と判定された場合

- ・ 事務局長が感染者と濃厚接触者のリストを作成して大分市保健所に連絡する。また、感染者が常在する部屋を直ちに閉鎖して消毒すると共に、行動範囲も特定して消毒を行なう。消毒に関しては、事務局長が消毒専門業者に依頼する。

2. 濃厚接触者に特定された場合

- ・ 濃厚接触者と判明した場合には、接触者が常在する部屋のドアノブ・スイッチ等の消毒作業を常在する部署の者、もしくは消毒担当者、消毒当番が行う。

消毒の手順（教室の学生用）

* 常備した微酸性電解水(スプレー)を使用する

- ①講義・学内実習の終了ごとに消毒作業をおこなう
- ②常備したバケツからスプレーを取り出す
- ③当番表の消毒場所に直接スプレーを噴霧
- ④噴霧10秒後に、雑巾で乾拭きする
- ⑤乾拭きした雑巾はバケツで洗う
- ⑥手すりや椅子に雑巾を干す
- ⑦手に微酸性電解水を噴霧
- ⑧当番もしくは使用者が、当番表に必要事項を記入
- ⑨その日最後の講義が終わったら、雑巾は干したままで、乾いていたら、スプレーと共にバケツの中に入れ、保管する

* 微酸性電解水が無くなったら、当番が保健室に取りに行き、補充する

微酸性電解水は、殺菌作用はありますが
人体には無害です

一般の消毒手順

* 常備した微酸性電解水(スプレー)を使用する

- ① 部屋の使用後、人の出入り後に消毒を行なう
- ② 暗所またはバケツからスプレーを取り出す
- ③ ドアノブや必要箇所に直接スプレーを噴霧
- ④ 噴霧10秒後に、雑巾で乾拭きする
- ⑤ 乾拭きした雑巾はバケツで洗う
- ⑥ 手すりや椅子に雑巾を干す
- ⑦ 最後に手に微酸性電解水を噴霧
- ⑧ チェック表を作り、必要事項を記入

* 微酸性電解水が無くなったら、指定された消毒剤の保管・補給場所に取りに行き補充する

微酸性電解水は、殺菌作用はありますが
人体には無害です